

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		運動スペース、作業スペース、ままごと遊びコーナー等、それぞれのこどもに合わせたスペースづくりを行っている。音を遮断できる空間がなく、聴覚過敏のこどもへの対応は、戸外遊びを組み合わせる等工夫している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			常時5～6名配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		トイレの便座がこどもにとっては高いが、足台を作成して対応している。手すりについて、検討中。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			月に1回の事業所会議において、職員全員で振り返り、改善策を話し合っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			2月に保護者アンケートを実施。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			今年度から実施予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価機関が県内になく、実施できていない。隔月に一回、外部作業療法士のスーパービジョンを受け、事業内容や個別事例について助言をもらっている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			月に1回ずつの法人職員研修、事業所内研修を行っている他、事例検討を行っている。外部研修にもできるだけ参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者からの聴き取り、こどもの状態の観察を通して、職員間で話し合いながら計画を作成している。ICFや氷山モデルを使用しながら分析を行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	標準化されたものは現在使用していない。今後、検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○		主には責任者2名でプログラムの立案を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			こどもたちのニーズや季節に応じた活動を工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇は、平日よりも長時間過ごすことになるため、1日の流れを明確にしながら、さまざまな経験ができるよう工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			集団で過ごす中で、1対1での関わり、少人数での活動、全体での活動と、目的に応じて組み合わせている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		全職員での打ちあわせができてはいないが、メール等も使いながら、事前の情報共有を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		勤務の都合上、全職員での毎日の振り返りはできていないが、気づき等は、責任者を通して、職員全員で情報共有をしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎日、記録をとり、責任者が定期的に振り返りを行っている。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			年に2回は必ず実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供を組み合わせている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			基本的には、サービス提供管理責任者が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			学校迎え時や電話等で、情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				現時点で、医療的ケアが必要な子どもは利用していない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		利用開始時点で連携を図れているケースもあるが、できていないこともあり、今後の課題である。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			小学生を対象とする事業所であるため、卒業後は他の放課後等デイサービス事業所を利用する機会が多い。移行会議等をもって情報提供している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			センター主催の研修等に積極的に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		公園等で一緒に遊んだり、誰でも来れる「あそび場」を月に1回開催する中で交流する機会を作れるよう工夫している。児童会等との交流はもてていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			呉市自立支援協議会会や、地域協議会(やすかわネット)に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時等に、保護者と話をしている。子どもや家族の状況変化等がある時には、相談事業所と連携を図り、個別訪問等を行っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○		ポラーノ広場での様子や関わりについて伝えたり、家庭での様子や関わりを聞かせてもらったりする中で、どのような対応をするのがよいか、一緒に考えている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に、重要事項説明書を用いて、説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		○		日々の送迎時に話を聞かせてもらう中で、必要な時には、訪問させてもらったり、他機関と連携して支援したりしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			「家族交換ノート」や年に数回の家族行事を通して、家族同士のつながりをもてるよう取り組んでいる。 親の会である「語る会」の案内も行っている。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情受付、解決へ向けた流れについて、「重要事項説明書」にも記載し説明している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○		「家族新聞」を数か月に1回発行している。行事は、その都度書面で案内をしている。	
	35	個人情報に十分注意しているか	○			注意している。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			それぞれに合わせ、分かりやすい伝え方を工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関われた事業運営を図っているか	○			月に1回「あそび場」を開催し、地域の親子に遊びに来てもらっている。また、行事にボランティアで参加していただいたり、地域の方にも参加してもらえる行事を開催している。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		緊急時対応については「重要事項説明書」にも記載。防犯マニュアル、感染症マニュアルは、今後検討する。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年に2回の避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			年に1回以上の研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか				現時点で、身体拘束を行っているケースは無い。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○		保護者からの情報に基づいて対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○				ヒヤリハット事例については、その都度情報共有し、ファイリングしている。